

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190500070		
法人名	(株)ニッケ・ケアサービス		
事業所名	ニッケふれあいセンターかかみ野		
所在地	岐阜県各務原市鷺沼各務原町8-7		
自己評価作成日	平成23年 8月 9日	評価結果市町村受理日	平成23年10月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokouhyou.jp/kai/gosip/inforati.onPublic.do?JCD=2190500070&SCD=730&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成23年 9月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりに合わせたサービスでゆったりとした一日の流れの中で“笑い”のある空間づくりを提唱しています。“安全第一”を基本に、事故をおこさない工夫や努力や職員の意思統一を常にみんなで検討しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

認知症に特化した取り組みを重視し、近隣の市町にも参加を呼びかけ若年性認知症サロンを独自に開設している。地域住民の事業所への理解や協力体制が強く、行事やレクリエーション等にも非常に良好な関係ができています。居室にはボランティアから提供された手作りの防災袋に日用品を入れ緊急時に備えた配慮をしている。管理者の利用者や事業所に対する熱い思いが、全職員の自己研鑽する姿勢になり日々の生活に「笑顔」を生み出す介護でサービスの向上に努めている。宿泊・通所者の限定枠から夕方から宿泊し朝帰宅する等割り振りに配慮しているが、利用者の思いが叶えられず新事業所の開設に向けて準備中である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「今日は、何回笑ってくれるかな」の笑顔をもットーに、職員共有して実践しています。	住み慣れた地域のなかで第二の家庭の居場所として、利用者も職員も「笑顔」を引き出す介護に努めている。会社の理念を毎朝唱和し日々実践しているが、事業所独自の理念が明文化していない。	会社の理念の柱として「今日は何回笑ってくれるかな」と意識しながらの姿勢は感じ取れるが、事業所独自の理念を明文化されることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ボランティアによる歌手や踊り時には、外の看板に貼りつけ、参加して頂いています。また、同業者ともイベントがある際、行き来しています。	福祉系高校が近隣に位置し実習受け入れや通学路でも気軽に挨拶を交わし、地域住民と日頃から触れ合う機会がある。玄関に催し物の案内を掲示してあり、住民が参加しやすいように、地域との関係を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談や認知症サポーター養成講座を開催したり、8月より若年性認知症サロンを開催する予定です。また、職員への研修・講習会を積極的に参加し、家族へ情報提供をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度実施し、家族代表は交代して参加で会議の中で出た、アドバイスを頂き活用している。例えば、居宅立ち上げ時、民生委員から民生の集まりがあることを教えて頂き、参加させて頂きました。また、研修情報や困難事例による、警察・BKとの連携やイベント参加依頼等地域に密着した議題が話し合われています。	事業所の運営状況のほか、外出・室内・利用者の状況、ヒヤリハット事例・職員の思い等を詳細に報告している。委員からの提案や助言、気づきを述べてもらい、地域での役割拡大につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困難や問題(家族の入院や家族館のトラブル等)相談し、一緒に悩み問題解決に繋げています。例えば、夫の入院に伴い、妻の行き場を地域包括に相談し、家族との検討会を行った。また、利用者の現状を家族に伝えるため、市職員にも同席してもらった。	市の介護事業所組織が地区割りと種別に分かれて協議会を設置し、市担当者も参加して、困難事例にも柔軟に対応し連携している。県や市の協力を得て、若年性認知症サロンにも先駆的に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルをもとに、社内研修を実施し日頃から、身体拘束が行われていないか意識しながら取り組んでいます。	玄関チャイムはあるが日中は施錠せず、いつでも開放している。併設する通所施設に行く利用者には職員が付き添い、自由に行き来できるよう拘束しない介護を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開き、常に人権の話・私たちの先輩であることを頭に叩き込み、常日頃から学び、また、家族内での問題がないかを報告をもらう。例えば、家族が泣いていたや不穏気味・疲れている様子など報告をもらう。また、該当するものについては、包括支援センターへ連絡・相談をしています。		

ニッケふれあいセンターかかみ野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括支援センター主催の会議に毎回出席したり勉強会等で、説明や研修に職員を行かせているが、今現在、該当者なし		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書及びパンフレットにより、例えば電話で説明し、理解を頂いて署名・捺印を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人・家族の意見・苦情を対応した職員は、全職員に報告し謙虚に受け止め改善に取り組んでいる。利用者の安全や安心、家族の介護負担軽減等利用者や家族の意見を多く聞きとり事業所の質・サービスの質向上に繋げるようにしています。	訪問や通所利用時に体調確認と共に家族に希望や意見を聞くように働きかけている。不在の家族には、電話やメールで聞いたり、夜間訪問を希望する家族にも対応し意見を取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度、全職員によるミーティングを実施しその都度、問題・疑問等生じた際、職員間との話し合いをもち、検討し質・意欲の向上に繋がりたいと思っています。	月1回のミーティングや毎日の引継ぎや出退勤時等にいつでも意見が提案できる雰囲気がある。職員の意見は計画・実践・評価し、新しい発見や職場改善につなげたり、会議で再検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年の昇給・賞与等で評価している。例えば、夜勤等、あけ後の勤務時等、遅番で対応(少しでもゆっくり出てこられるよう)しています。希望休もほぼ希望どおりにとってもらっています。何でも話せる環境づくりをこまめに職員に声かけして、現状の思いを聞きだしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて随時指導しています。法人内の勉強会や社外での研修等に積極的に参加し、自己スキルアップへと繋げ、社外研修も積極的に参加し報告し情報共有をしている。また、実践では褒めながら、その都度、「ここはこうしている」や考える時間をもたせています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議や交流会を実施し、悩みやアドバイスを頂いています。また、イベントの最は、お互い声かけをし、参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活状態を把握しながら悩み等、相談があった時は、必ず時間を作り傾聴しています。すぐにできない時は、いつと約束をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	送迎時に家族への声かけを職員へも徹底し、行動等把握し変と思われる時は、情報ももらい、遠まわしで「お元気ですか」等の手紙を書いたり、電話をしたりして精神面でも支援していく姿勢を伝え、安心して頂けるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、一番何が困っているのかを引き出し、一緒に悩みアセスメントしてプランに繋げ適切なサービス利用を受けて頂けるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自宅を拠点として、できる事の役割を持って自信を持ってもらい、できない部分のみ共に行うようにしています。また、昔話や家族の愚痴を聞いたり、若い頃の写真を見ながら思い出話をする。互いの思いを共感し支え合う関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族と同じ思いである事を伝え、悩み等あった場合、その都度対応し、共に悩みどうしたらよいかを考えています。この対応は、メールや電話や手紙でやり取りしています。家族だけで悩む事がないよう十分連絡をとりあっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	夏まつりやご近所への散歩等で、気軽に声かけし、また、ここの地域にニッケのOB・OGがいるので、イベント時には、来て頂き、利用者様と会って話をして下さっています。今後は、行きつけの店へも個別で連れ出して行く計画をしています。	自宅での生活の延長とし併設する通所介護で馴染みの人と一緒に会話ができるように配慮している。作品を地域のコミュニティセンターに出展する支援や家族に代わり行きつけの場所への送迎をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲のよい利用者様同士、同じ趣味の話で盛り上がる。それまでに、職員が間に入り同じ趣味だったことを知らせ馴染んで頂くようにしています。また、よい意味でのライバル意識(やりがい)も引きだすようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)終了後も関わりを必要として下さる家族の相談をお受けしています。年始・暑中見舞い等のあいさつは欠かさず家族とメールでの近況を聞いたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理由があることを常日頃から職員に理解をもとめ、情報収集して、困難時を検討しています。	これまでの生活歴を把握し送迎時に家族にその都度嗜好や考え方を聞いている。利用者との目線を合わせ思いを聞いたり、表情や仕草を見逃さず意向を尊重する努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員に情報共有しながら、新しい情報は常に知らせみんなが把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、通いで来られた時、訪問した時等の状態や話の中で察知しています。また、一人ひとりの生活リズムを理解し観察しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員が集まり、一読してアドバイス(意見)をそれぞれもらいながら、一緒に考えています。	日々の業務日誌の記録や家族の記録から定期的に評価している。心身や家族状況の変化時には、随時家族・担当者・看護師等を含め、主治医からの助言を得て計画を見直し作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の変化(小さな事から大きな事まで)を記録にし、気づきや新しい情報を得た中から、役割や会話等コミュニケーションに繋がっています。また、情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やその家族の状況変化には、素早く対応し、サービスの見直しにも対応できるようにしています。また、決められた設定の中でも、柔軟に試行錯誤しながら、みんなと検討し一緒によい方法を考えています。		

ニッケふれあいセンターかかみ野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との繋がりが切れぬよう、昔の話を聞いてみたり、近隣の方や民生委員さん・包括支援センターと連絡を取りながら、助けて頂いています。また、ボランティア等活用し、喜んで頂けるよう努力しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	異常が見られた場合、すぐに家族に連絡を入れ、かかりつけ医に連絡をとっています。また、ケアマネから主治医にこまめに連絡を取り、今の状態等を報告しています。	日頃からかかりつけ医との連携は密であり、面談や手紙にて助言や意見を聞いて情報を共有している。ターミナルの利用者の場合、宿泊時にも訪問看護や往診の依頼をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何名かのナース間とも連携をとり、処置方法も統一し、また、職員にも情報提供してくれています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ワーカーとケアマネとの連絡をしながら、情報交換を行っています。退院後の情報も欠かさず連絡させて頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	限界がきた場合(医療系でないため)、家族との納得の上で、どうしていくかの方針を一緒に考えています。急変時の対応や変化に対しても、包括支援センターとも連携相談し、対応できるようにしています。	契約時に事業所の方針を説明し、出来る介護に限界があることを伝えている。重度化した場合、家族・地域包括職員を交え、かかりつけ医の意見を聞いて、痛みの対処や褥創への支援もその都度話し合い、できる限りの対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等受講し、急変時等実践できるように、各自身につけています。定期的な防災訓練・救命処置訓練を実施しています。また、緊急時マニュアルにそって行動できるよう統一を図っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練時、地域の方の参加もお願いしています。これから、密にとり、避難場所としてここを利用して頂くようアピールし、備蓄も万全です。と安心して頂くように宣伝しています。	地域の避難場所として活用したり、地域住民の協力を得て、避難訓練を実施している。防災袋に頭巾や日用品を入れ、食糧の備蓄をしている。DVDを見て研修しているが夜間想定避難訓練が実施できていない。	夜間の緊急時に備え利用者も職員も落ち着いて避難できるように、夜間想定訓練を早期に実施されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に職員には、先輩であり誇りやプライバシーを配慮した声かけに心かけ、一人ひとりを尊重して接しています。	目線をあわせて話しかけ、時には小声で声かけするなど、その場の雰囲気に合わせて言葉使いに気をつけている。排泄時にタオルをかけたり、掲示物や広報紙の写真にも承諾を得て利用者の気持ちを尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が指示するのではなく、話の中で思いや希望を表に引き出せるよう、時間をかけて傾聴しています。また、表出しにくい方には、個別で対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制する事なく一人ひとりに合わせ、体調を配慮しています。また、話の中で、引き出せるよう、常に考え職員に情報共有しながら、意思統一を図っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後、自ら鏡の前でする人、少し支援する人、メイクセラピーを利用して、メイクしてもらおうとニコニコ笑顔が絶えません。訪問時には、翌日の通い時に着ていく洋服を選んでもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	話の中で、何が食べたいか、おやつ作り(以前よく作っていたものには)の場を作り、活躍して頂いています。準備や片づけもできる方には、一緒にやって頂いています。	なじみの箸や湯飲み、使いやすい自助具を使用し、職員と一緒に食事をしている。机の上を拭いたり、後片付け等利用者のできることを支援している。おやつや献立の変更等、利用者の希望を聞いて取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	こまめに摂取、この時期は特にポカリスエットを摂取して頂いています。また、自宅でもすすめるよう、案内を配布しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の口の体操(重要性を説明し理解して頂き)と三矢サイダーを一口氷を含んで頂き刺激を与え、食後には歯磨きを徹底しています。		

ニッケふれあいセンターかかみ野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を作成し、時間の検討をしたり(タイミングを見計らい)、ボクサーパンツを使用したり、日中パットを外したりの個別対応をしています。	排泄状況は通所や宿泊だけではなく、自宅での把握にも努めており、家族の協力を得てチェック表に記入してもらっている。紙パンツやパットの使用をなくし、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	家族とも連携を図り、服薬するなり、水分補給するなり繊維質の物を工夫したりしながらコントロールができるよう個々に対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一番風呂を喜ばれる人、仲のよい人としか入らない等、それぞれのタイミングで対応しています。また、強制することなく、安心して1対1で会対応しゆっくり入って頂いています。	宿泊も含め利用者全員が毎日入浴しており、職員の同性介護にも配慮している。併設の通所介護の7種類のお風呂で超音波、気泡浴、リハビリ浴などを楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の身体状況や生活習慣に合わせてあわせて休息して頂ける対応をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容を定期的に家族に確認し、チェック表を作成して、ナースの指示のもと、職員と一緒に確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族・本人からの情報をもとに、ここでやれる事は、お願いし逆に役だっているんだとの思いを引き出してもらっています。また、日頃から力を発揮し、日々の暮らしに張りがもてるよう、外出等に参加して頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせた行事に参加して頂いています。今回、4周年記念で遠足に出かけ、この会を運営推進会議として、市役所・地域包括支援センター・民生委員に参加して頂きました。	花見や初詣、航空ショー等季節や希望に応じて外出をしている。大型ショッピングセンターに買い物や喫茶店に行ったり、希望を聞いて、車いすの利用者も一緒に日常的に散歩をしている。	

ニッケふれあいセンターかかみ野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	遠足時、土産物を購入する人や観覧車に乗る際、出して頂いています。また、買い物や喫茶ツアー時には、その都度お預かりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をしたい等言われた際、職員が取次対応をしています。暑中見舞いや年賀状も一人ひとり記入してもらい出して頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内には、五感・季節感を意識しています。自ら作成した絵や書道等、自由に展示できるようにしています。みんなで作成した切り絵も展示しています。また、環境面やプライバシー保護に伴い、共用の空間にも配慮しているが、その都度問題解決を行っています。	事業所内は滑りにくいクッション性のある絨毯を敷き、自宅での生活と同じように、職員も靴をはかず、居心地良く過ごせるよう対応している。利用者の作成した手芸や貼り絵、習字などを飾り、地域のボランティアが四季折々の絵を持ち込んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に自ら見つけられ、行っています。例えば、庭にベンチを置き、一人で過ごしたり気分転換をしたりして過ごせる居場所作りに工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自分が作成した作品を掲示や展示ができるようにしています。また、泊りの際、自宅からカセットを持参し、居室で歌の練習をしています。	できるだけ同じ部屋で宿泊できるように配慮しており、入れ替えできる写真入れや、作った作品を壁に飾っている。歌詞カードやカセットテープを持ってくる利用者には、自宅での習慣を変えないような支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を活かして、自宅と変わらない生活をして頂けるよう見守り・環境整備等配慮しています。例えば、車いすの方で最近、居室や洗面所等へ移動し、PTイレへ自ら移乗されるようになり、自由自在に操作されるようにここを利用されるようになってから、力がつきご本人も嬉しそうにお話して下さいます。		